

本時のねらい

- ・面の形に着目して、箱を仲間分けすることができる。
- ・直方体や立方体の頂点、辺、面の数や形について調べ、その特徴を理解する。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・自分の考えを整理するためにロイロノートのシンキングツール（ベン図）を使って分類を行うことをねらいとした。
- ・考えを記入したカードを提出箱に提出させ、共有できるようにすることで、他の児童の考えを知り、自分の考えと比較したり、自分の考えをまとめる際の参考にしたりすることをねらいとした。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・Chromebook
- ・授業支援ソフト（ロイロノート）
- ・プロジェクター

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (3分)	<ul style="list-style-type: none"> ○前時のふりかえりを行う。 ○学習のめあてをつかむ。 「箱の形を仲間分けして、頂点の数・辺の数・面の数や形について調べよう」 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で出たキーワード(「長方形」と「正方形」等)を確認し、本時で使うカードに教員が書き込んだうえで、カードを児童に配付する。 ・穴埋め形式のカードを作成しておき、ポイントになる言葉だけ、児童に入力させる。
展開 (37分)	<ul style="list-style-type: none"> ○面の形に着目し、ベン図で箱の形を仲間分けする。 ○直方体・立方体の定義について知る。 ○直方体や立方体の頂点、辺、面の数や形を調べ、表にまとめる。 ○調べた結果、わかったことや気付いたことをカードに記入し、提出箱に提出する。 ○考えを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予め作成しておいた、分類する箱の図を貼り付けたベン図を児童に送り、自分で操作しながら、考えさせる。 ・自分のすぐ近くに図があった方が考えやすい児童に対しては、直方体・立方体の図をヒントカードとして学習者用端末に配付する。 ・提出箱内の設定を「共有許可」に変更し、他の児童が提出したカードを見られるようにする。 ・提出した発表者のカードをプロジェクターに投影する。 ・画面配信機能で児童の端末でも見られるようにする。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・穴埋め形式のカードを作成しておき、ポイントになる言葉だけ、児童に入力させる。

1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：穴埋め形式のカードで本時のめあてを考える場面



写真2：ベン図を使って様々な箱进行分类する場面

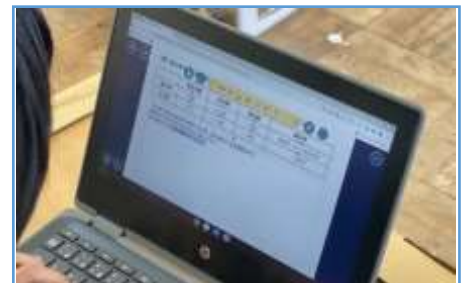


写真3：頂点、辺、面の数や形を調べ、それをもとにわかったことを記入する場面

児童生徒の反応や姿容

- ・ロイロノートのシンキングツール（ベン図）を使用したことで、図を何度も移動させて試行錯誤しながら自分の考えを持つことができていた。
- ・他の児童の考えを自分の端末で確認することができたので、自分の考えと比較し、考えを深めることができていた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

ロイロノートでワークシートを作成し配付することで、考える時間の確保につながった。また、数枚のカードをつなげて送ったことで、児童が活動の流れを見通すことができた。

児童が考える際の支援として、実際に具体物として箱を用意するだけでなく、ロイロノートでヒントカードをつくっておき、ヒントが必要な児童の状況に応じて送ることで、それぞれの児童に合わせた指導ができた。